

6 · 宣伝活動

手が困難に感じられるほど
の値上げ、品薄、入荷の不
安定化が起きており、会員
の方々に満足していただけ
る価格と品質を両立させる
品物、方法を日々模索して
いますが、ある程度の値上
げは行っていく必要がある
と感じています。

また、前年同様販売品目
を絞り込み、必要なときの
仕入れと販売を継続してい
くことで、食品ロスや極度
のディスカウント、管理体
制の無駄をなくせるよう徹
底していきます。

2024年4月からの1年間に、毎月1回、計12回機関紙の発行を行いました。そのうち5月と1月の2回はB4判4頁での発行を行いました。

機関紙をより充実させるため、2024年10月から12月にかけてアンケートを実施しました。しかし残念ながら回答数は伸びず7件にとどまりました。現在の機関紙の発行部数が毎月約250部であることを考えると非常に残念な結果です。アンケート回答のハードルが高かったのか、そもそも手元に届いた機関紙を読んでいる方が少ないのか、原因は想像の域を出ません。毎月発行するからにはより

多くの方に読んでいただきたいです。読者数が伸びないのであれば機関紙のあり方そのものを考え直す必要があると考へています。

ホームページの更新も適宜行いました。2023年から始めたお問合せフォームからのロシア語講座申込も定着してきたようにも思いました。一方、お問合せフォームを本来の目的外に利用し、各種サービスの勧説や売込を行っています。こうした迷惑行為の増加により、本来対応すべきメールがメールボックスに埋もれることの多さが問題となっています。

8 料理サークル「ペチカ」の活動

A long table covered with a pink cloth, displaying various food items including cakes, sandwiches, and salads. The food is arranged on white plates and some are garnished with fresh herbs like dill. In the foreground, there's a sandwich with yellow egg salad and red beets, and a slice of cake with yellow frosting. In the background, there are more plates of food and a person taking a photo.

7. 物品販賣活動

2025年度の目標は、その中でも、毎年会員のみ会員のみなさまに“楽しみなさんがお手土産”ご自宅“にしていただけるようななどで、‘楽しみ’にしていく物販を続けていくことです。ただいているTAMADA

のジョージアワインなどの定番かつ人気の品物は、仕入代金や情勢の変動を安易に価格転嫁しないよう、継続的に会館でのイベントや、物販部門はたいへん

報告
第23回 「料理サークルペチカ」例会

第23回 「料理サークルペチカ」例会

ると非常に残念な結果です。みをされる件数が最近増えアンケート回答のハードルを上回っています。こうした迷が高かつたのか、そもそも迷惑行為の増加により、本来手元に届いた機関紙を読ん対応すべきメールがメールでいる方が少ないのか、原ボックスに埋もれることの因は想像の域を出ません。無いよう、対策を講ずるこ毎月発行するからにはよりとが必要です。

これまでの例会ではヨーロッパ受ける人の不足など、ラシア諸国出身の方々に母國の料理の作り方を指導し、調理室を借りて大勢で料理をしていただき、みんなで調理をして試食するということを続けてきましたが、物価高、今まで会場にしてきた東生涯教育センターの料理室の使用料の値上げ、予約の取りにくさ、また企画、広報、講師との連絡、実際の材料の買い出しや運搬などを引継ぎます。従来のようにならぬ要因で、例会の開催を難しくなっています。

当面は身の丈に合った集まりした集まりを頃な参加費で開催することを目指します。会場費を約するためロシア語教員を使うことになりますと、参加者の人数は10名

合唱団「ミール」の活動

投稿 カザフスタンを訪問して①

投稿 カザフスタンを訪問して①

ます。2022年2月のロシアによるウクライナへの軍事侵攻以来、ウクライナを支援する気持ちから、第2の国歌と言われるタラス・シェフチエンコの詩による「広きドニエップルの嵐」などウクライナの歌を歌つてきましたが、ロシア兵士墓地慰靈祭では「ロシアわがあるさと」を封印しているのに、ワールド・コラボ・フェスタでウクライナ国歌を「ウクライナは滅びず」を合唱団「ミール」として歌う事が良いのか思案しているところで、ミールの運営委員会で議論したいと考えているところです。

中央アジア随一の近代都市、アスタナを目指して
2025年3月24日（月）、ムーズに済んだ。
中部国際空港（セントレア） カザフスタンと聞いて、
から旅が始まった。前回の 皆さんはどんなイメージを
ウズベキスタン訪問から、思い浮かべるだろう。シリ
ちちょうど一年が経っていた。クロードの交差点、資源
今回の行き先はカザフстан 恵まれた大地、広がるステッ
ン。日程は3月24日から31 プ（草原）——。そんな国
日までの一週間である。初景が頭に浮かぶかもしれない
めて訪れる国に、少しの不い。しかし近年では、経済
安と大きな期待を抱きながら出発した。
ウズベキスタンから帰国 しているようだ。私にとって、
して以来、スーツケースのは、伝統と未来が同居する
中には電子機器など旅の携 ようなこの国の姿が、とて
行品がそのまま残っていた。も魅力的に映っていた。さ
そのため、特別に新たな準備をする必要もなく、出発
までの支度は思いのほかス 都市設計でも知られ、中央

ます。2022年2月のロシアによるウクライナへの軍事侵攻以来、ウクライナを支援する気持ちから、第2の国歌と言われるタラス・シェフチエンコの詩による「広きドニエップルの嵐」などウクライナの歌を歌つてきましたが、ロシア兵士墓地慰靈祭では「ロシアわがあるさと」を封印しているのに、ワールド・コラボ・フェスタでウクライナ国歌を「ウクライナは滅びず」を合唱団「ミール」として歌う事が良いのか思案しているところで、ミールの運営委員会で議論したいと考えているところです。

